

## HEM-Net のシンポジウム開催

### ドクターヘリの広域運用



10月17日、永田町において HEM-Net 主催によるシンポジウムが開催された。ドクターヘリが配備されている道府県が増えていることから、近い将来にドクターヘリ全国ネットワークの構築も視野に入れ、これから求められるものは質的な変化であることからこのシンポジウム開催となった。

一方で昨年が発生した東日本大震災の際には、被災地にドクターヘリが出動するに当たって、道府県と基地病院とが交わした運航規定によって、出動できなかつたり、或いは出動までに時間がかかった病院もあったことから、本誌先月号でも紹介したように、各病院において被災地への出動を可能にするべく、各病院において努力がなさ

れている。

また、そのためにも日常からの広域運用が必要となることから、出動の範囲を当該都道府県単位に留めず、境界を越えた広域県単位の運用の必要性が高まっている。

シンポジウムは HEM-Net 副理事長である篠田伸夫氏の司会で始まり、同理事長である國松孝次氏の開会の挨拶からスタートした。

國松氏は、広域医療の確保の必要性から、これからのドクターヘリに求められるのは、安全を担保しながら日常的に広域に運用することである。しかしどのような運用体制にするのか、あるいは消防防災ヘリとの連携について等について検討しなければなら

ない。すでに関西や九州では広域運用を模索している、と語った。



國松孝次氏理事長

次に元内閣官房副長官の石原信雄氏が「危機管理の要諦」とのタイトルで基調講演を行った。要旨は以下の通り。



石原信雄氏

自治省時代は、国民が行政による恩恵を等しく受けられるように心がけてきた。違ったことが発生した時、或いは想定通りいかない時はどう対応するのが危機管理である。危機管理は国家そのもの、地方自治体、企業、個人レベルにも等しくある。想定外のことが発生した時は、限られた資源でどう備えるのかが問われる。

健康が失われた場合に対応するのか。それがドクターヘリである。一方領土問題は国と国との対立であるため、国家レベル

の危機管理は安全保障となる。

最後に篠田氏と HEM-Net 副理事長の小濱啓次氏のコーディネートによるシンポジウム「ドクターヘリの広域運用」が行われた。



小濱啓次氏副理事長

パネリストは 50 音順に熊本赤十字病院救命救急センター長の井清司、和歌山県立医科大学附属病院高度救命救急センター長の加藤正哉、公立豊岡病院但馬救命救急センター長の小林誠人、久留米大学病院高度救命救急センター長の坂本照夫、前橋赤十字病院高度救命救急センター長の中野実、日本医科大学千葉北総病院救命救急センター長の松本尚、さらにコメンテーターとして総務省消防庁国民保護・防災部広域応援室長の石山英顕、厚生労働省医政局指導課課長補佐・災害医療対策室長の長谷川学の各氏であった。

現在ドクターヘリは 32 ヲ所に 38 機が導入されており、さらに来年度中には 42~48 ヲ所に増加するであろう、との現状を説明。日常時も広域運用を行うのが望ましい、として、さらに広域運用の内容には 3 つあり、①平常時のドクターヘリ同士、②平常時のドクターヘリ+消防防災ヘリとの連携、③災

害時における広域運用、との観点に立ってシンポジウムは進められた。

最初にパネリストの各氏からそれぞれの地域事情の説明と問題点の発表が行われ、それを元にディスカッションが行われた。



公立豊岡病院但馬救命救急センター長  
小林誠人氏



写真左 前橋赤十字病院高度救命救急センター長 中野実氏

写真右 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター長 松本尚氏

- ・ドクターヘリの要請・活用には地域差があったり、要請基準が統一されていない。
- ・通信の問題がある。現場が高速道路の場合など、警察と連絡が取れない。他県への出動となると県波が異なるため全国波

を使わなくてはならない。

また、ドクターヘリと消防防災ヘリとの連携については、

- ・防災航空隊とドクターヘリの運航会社が同じなので、CS間での情報伝達が円滑で便利。
- ・和歌山県ではもとと防災ヘリにドクターが搭乗し、ホイストで現場へ降下するなどしている。
- ・熊本県では消防防災ヘリとドクターヘリが相互補完体制をしいている。2機のヘリで4病院体制をとり、会議同時通話システムにより、県の消防防災センターが受けた消防機関からの要請内容を、4つの基幹病院のCSも同時に聞いて情報を共有している、  
などの発表があった。



篠田伸夫氏副理事長

さらに広域運用のためには、動態管理システムや、JAXAのD-NETのような運航管理システムなどがあると便利なのでは？との意見に対し長谷川氏は、厚生労働省としては無線のデジタル化を図るとともに、リアルタイムにドクターヘリの位置を把握し、広域運用や効率的運用ができるようにするため、ドクターヘリにGPSを搭載するための予算を盛り込んでいる、と答えた。